

学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 基礎医学系講座 免疫学分野	氏 名	にしわき りょう 西脇 亮
審 査 委 員	主 査 水野 修吾 副 査 間山 裕二 副 査 後藤 英仁		

(学位論文審査結果の要旨)

Elevated plasma and bile levels of corisin, a microbiota-derived proapoptotic peptide, in patients with severe acute cholangitis

【主論文審査結果の要旨】

著者らは論文において下記の内容を述べている。

急性胆管炎は、生命を脅かす重度の胆道系感染症であり、早期の診断と治療が必要である。東京ガイドラインでは、診断には臨床所見、検査所見、画像所見を合わせて重症度を判断することを推奨しているが、即時の介入治療が必要な重篤な症例を特定するには依然として課題が残っている。

微生物叢とその微生物の産物は、急性胆管炎の発症に関与していると考えられている。コリシンは、細胞のアポトーシス、急性組織損傷、炎症を誘発する微生物叢由来のペプチドである。本研究では、血漿および胆汁のコリシンレベルが急性胆管炎のバイオマーカーとなりうるかを評価した。

総胆管結石症または悪性疾患を伴う急性胆管炎の患者40人を実験群、急性胆管炎を患っていない9人の患者を対照群として解析を行った。血漿および胆汁中のコリシン濃度は酵素免疫測定法によって測定した。患者は重症グループと非重症グループに分類した。血漿および胆汁コリシンレベルと急性胆管炎の重症度およびその他の臨床パラメーターとの相関を単変量解析及び多変量回帰分析によって解析した。

血漿および胆汁コリシンのレベルは、対照群よりも急性胆管炎患者の方が有意に高く、また、重症急性胆管炎の患者は、重症でない急性胆管炎の患者よりも血漿および胆汁コリシンのレベルが有意に高かった。胆汁コリシンレベルは、炎症、凝固、

線溶、腎機能のマーカーと有意に相関していた。

単変量解析により、胆汁コリシンと重症度の間に有意な相関が示された。多変量解析では、胆汁コリシン、血漿コリシンレベルと重症度の間に有意な相関が示された。ROC (receiver operating characteristic)解析により、急性疾患の重症度を検出するための血漿および胆汁コリシンに対する感度は低い、特異性が高いことが示された。血清C反応性タンパク質レベルを含めてROC解析を行ったところ、血漿および胆汁コリシンレベルの感度が増加した。

これらの結果から、血漿および胆汁コリシンレベルは急性胆管炎の診断およびモニタリングに有用なバイオマーカーである可能性があること、コリシンが炎症、凝固、腎機能を調節することによって急性胆管炎の病態に関わっている可能性が示された。

以上、本論文は、コリシンが急性胆管炎の重症度を判断するマーカーとなる可能性を初めて示したものであり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものと認めた。

Gut Pathogens 2023; 15(1):59

Published: November 30, 2023

doi:10.1186/s13099-023-00587-4

Ryo Nishiwaki, Ichiro Imoto, Satoko Oka, Taro Yasuma, Hajime Fujimoto, Corina N. D' Alessandro-Gabazza, Masaaki Toda, Tetsu Kobayashi, Hataji Osamu, Kodai Fujibe, Kenichiro Nishikawa, Tetsuya Hamaguchi, Natsuko Sugimasa, Midori Noji, Yoshiyuki Ito, Kenji Takeuchi, Isaac Cann, Yasuhiro Inoue, Toshio Kato and Esteban C. Gabazza